

疾患名

ギラン・バレー症候群

病気について

ギラン・バレー症候群（Guillain-Barré syndrome: GBS）

ギラン・バレー症候群は、末梢神経が障害されることによって、筋力低下、しびれ感、痛みなどの症状が引き起こされる病気です。末梢神経とは、脳や脊髄といった中枢神経から分岐して全身に分布していく神経のことで、運動に関わる運動神経、感覚に関わる感覚神経、身体の機能を調節する自律神経に分類されます。ギラン・バレー症候群では、ウイルスや細菌による感染をきっかけに起こる免疫反応が自身の末梢神経を攻撃することによって発症すると考えられています。多くの例で血液中に末梢神経を攻撃する自己抗体が存在し、血液検査で調べることができます。

治療について

治療を行わなくても自然に症状が軽快することもあります。呼吸困難に至るような重症例や、治癒しても後遺症を残す例が少なくないことから、早期に治療が開始されます。

免疫グロブリン静注療法、または、アフェレシス（血漿浄化療法）を行います。

アフェレシス療法の適用とその実施

保険適用：あり（Hughes重症度分類で4度以上の場合に限る）

Hughes重症度分類4度とは、支持があっても5メートル歩けない状態です。

アフェレシス療法の種類：血漿交換、二重膜濾過血漿分離交換、免疫吸着法

回数：一連について月7回を限度として、3カ月間に限って行います。